　《見方・捉え方〔31〕》　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和5年3月30日

偶然と必然

《気付き①》

◇　いつの頃からか，世の中で惹起する事案・事故・事件の類について，偶然と必然の接点という視点で捉えるようになっていました。何となくの印象で残っているのは，中学生だと思われる頃に，廊下で他の人とぶつかりそうになったりした時に，自分と相手の人が用事などで足早で行こうとしていたのは「必然」だが，ぶつかりそうになるのは「偶然」だろうと思ったりしていたように思います。家業の手伝い的な形で車の助手席に乗る機会が多くあったことで，交通事故のイメージとして偶然と必然のことについて思いを巡らせていたようにも思いますが，もしかすると，もう少し後年になって構築したイメージかもしれないとも思います。

◇　この偶然と必然の在り方を，人との出会いや巡り合わせにも当てはめるようになったのは，高校生になった頃のように思います。小学生の頃は1学年1クラスのままで推移し，中学生は他の中学1校と一緒になっただけで，小学校からの人間関係の延長線にあったように思います。高校生になる段階で，自分の中学校からは自分だけがその高校に進学したので知人・友人はまったくいなくて，クラスや席順などでの巡り合わせに，偶然・必然の要素を強く感じたように思います。

◇　こうしたこととの関連で幾つかの物語・記事などに接する中で，飛行機事故や列車事故などの大惨事に乗り合わせてしまった人のことや偶発的な事情で乗り損ねて助かった人のことを《運命的な偶然の作用》として扱っていることなどから，自分の命や人生に《運命的な偶然の作用》がどんな影響を与えるのだろうかと思ったり，必然との関係性をどのように捉えるのが良いのだろうかと，漠然と思っていたように思います。

《気付き②》

◇　予備校・大学生活を東京で送るようになり，電車に乗ることが日常になりました。それまでの電車の経験と異なり，電車の窓からすぐ近くのビルや看板，その向こうに別のビルや看板などが重なったりズレたりして，見えたり見えなかったりする中で，《見えていることの不確実性》について，しばしば思いを巡らせていました。

◇　高校の頃に近視が進んでメガネを掛けるようになり，右目と左目の見え方の違いや利き目の違いなどを理解するようになったように思います。小さい頃からの遊びの中で，目の前に親指と人差し指で輪をつくり，片目をつむることでの中の像の見え方の違いを話題にしたことや，おもちゃの鉄砲での「狙い」の定め方などの経験とかが重なり，日常的な《見え方・捉え方》についてでさえ，自分個人の次元でも右目・左目・両目・利き目などの要素が影響することを考えていたように思います。自分の原点となる身体の扱い方で，見え方・見方・捉え方自体が，事実の在り方との関係も含めて，何が，どのような意味で《確実なこと》と言えるのか，《事実性・確実性》とは何かなど，あれこれ考えていたように思います。

《人の出会い》

◇　教員となり，学校や事務局などで仕事をする中で，大きな功績を残された方々の祝賀会挨拶や講話，退職挨拶などを聴く機会が増える中で，その方々の多くが話の中で，「自分は多くの優れた上司・先輩・仲間・部下などとの出会いがあり，格別に恵まれた良い環境があったことで現在の自分が成り立っていて，巡り合わせの幸いを含めて多くの方々に心から感謝している」という趣旨のことを話されていたように思います。

◇　そうした話を聴くことと対比的に，実際の職場などでの懇親会の席などでの会話は，同僚・上司がいかにズレたひどい判断や対応をしているかというのがしばしば話題になる状況であり，私の周りや経験などからでも頷けることが多くありました。思い返すと，セクハラ・パワハラの事例もそれなりにあったように思います。

◇　この頃の私の受けとめ方は，人の出会いにはそれなりの濃淡があり，力量のある人柄の良い人物と出会えることは通常的にはあまり無いような《幸運》であり，出会いには偶然的な要素が多く介在しているように思っていました。出会いの意義・価値は，偶然性に左右される面が大きいように思っていました。

《こちら側の必然》

◇　こうした捉え方が変容することになったのは，管理職的な業務に関わるようになってからだと思っています。教員を例にとると，学校規模により同僚となる単純人数ではかなりの違いが生じることと思いますが，日常的な業務の関りがそれなりに生じている人との出会いなどは，異動も考慮すると，同じような範囲と捉えられると思うようになりました。規定的に表現してみると，偶然的に一緒に仕事をすることになる出会いにはそれほどの多寡の違いはなく，多くの人は同じ程度に上司や同僚に恵まれることもあれば，そうでない人にも同じ程度に出会っているのではなかろうか・・と捉えるようになりました。

◇　別の言い方をすると，そうした《偶然的な出会い》を，意義のある良い出会いへと導く要素は，相手方にあるのではなく，むしろ，こちら側にあるのであって，相互作用のこちら側としての《自分の視点・技量などの力量の総体》が必然的なこととして機能性を発揮できているのかどうかが大事なことのように思うようになりました。

◇　人との出会いにおいては，自分の見方・捉え方や事実の踏まえ方などの方が，より大きな要素として働いていて，少し強めに言えば，『多くの良い人たちに恵まれたから，自分が良い成果・評価を得ることになったのではなく，自分が周りの人の良さを自分と噛み合うように見方・捉え方を整えることができたからこそ，良い出会いになった』ということになろうかと思っています。

《特別な出会い》

◇　人の出会いが生み出す人間関係・社会関係自体が《相互作用》そのものであり，こうした一般的な捉え方がある中でも，その人の人生の在り方に格別の大きな影響を与えるような出会いと言える《特別な出会い》もあることと思っています。著名人や格別の功績のある方々の事例などは，いろんな機会に取り上げられることがしばしばありますし，私を含めて身近な人の中にも，そうした《特別な出会い》が，より有意義な連鎖になっているケースも多くあります。

◇　《特別な出会い》においても，その出会いの多くは偶然性が強く働いていることと思いますが，それが《特別性》を帯びるに至るのは，やはり，こちら側の受けとめ力・対応力が準備されていたり，場面・状況で格別に高まったり深まったりしていることの事実把握・認識が必須なのだろうと思います。事故などの不幸な偶然ではなく，人との出会いの偶然を僥倖に変質させて，さらに自分の大きくて豊かな財産に転化し得る力は，こちら側の必然（の努力）にあるように思っています。